

気管支喘息

1. 気管支喘息とは

空気の通り道である気道に慢性的に炎症が起こって、いろいろな刺激で、気道が収縮し、狭くなることで、ひゅーひゅー、ぜーぜーしたり、咳、呼吸苦がでたりといった症状がでる病気です。通常であれば反応しないようなちょっとした刺激（気候の変化、台風、運動など）でも敏感に反応してしまい、症状がでることがあります。

慢性的な炎症を放置していると、気道の組織の一部に障害が起こり、繰り返すことで傷が元通りになりにくい、リモデリングという呼吸機能の低下をきたすことがあるので、早期の治療し、コントロールをよくすることが重要です。

2. 対策

① 長期管理としての薬物治療

コントロール状態に応じて、吸入ステロイドや内服薬を使用します。自覚症状がなくても気道の慢性的な炎症は起きているので、症状がないときでも医師に指示された薬は毎日使用するようにしましょう。重症な場合は生物学的製剤といった注射薬を使用することもあります。

② 急性増悪時の薬物治療

症状がでたときにどうするかを普段から主治医と、使用する薬剤や受診するタイミングを確認することが大切です。吸入薬、内服薬などを使用します。

感染症などなんらかの要因でひゅーひゅー、ぜーぜーとした症状が起きた場合は、生活の様子（眠れない、遊べないなど）、全身の様子（顔色が悪いなど）、呼吸や脈の様子（呼吸の時にのどの下や肋骨の間がへこむ、脈がとても速い）を観察し、ひどい場合は医療機関を受診しましょう。

③ 悪化因子の対策

たばこの煙、ほこり、ペットなど環境中の刺激物質で悪くなることがあるので、喘息のお子さんがある場合は、刺激物質を避けられるよう環境を整えましょう。

また、運動したことで喘息がでることもありますが、普段から薬物治療を行うことで、運動制限はしないで済むコントロールを目指しましょう。

3. 当院でできること

喘息が悪くなった時の入院管理も含めた対応、外来で呼吸機能検査などを用いて喘息の診断、長期管理を行います。

喘息のコントロール、または診断はついていないけど長引く咳嗽等あれば、お気軽にご相談ください。